

住居 同所

醫師

中 村

權

七六四

明治十一年五月六日生

本籍 兵庫縣多紀郡古市村南矢代百五十八番地

住居 三重縣名賀郡名張町字丸之内 稻森ノ方

酌婦

酒 井 民 江

明治三十八年二月六日生

右ノ者等ニ對スル墮胎被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

主 文

被告人權ヲ懲役五月被告人民江ヲ懲役三月ニ處ス

被告人等ニ對シ此ノ裁判確定ノ日ヨリ四年間右各刑ノ執行ヲ猶豫ス

理 由

第一、被告人中村權ハ明治三十四年以來名賀郡名張町ニ於テ醫師開業中ノ者ナル處

(1) 昭和十三年三月十三日頃相被告人酒井民江ヨリ其妊娠三ヶ月ノ胎兒ノ墮胎施術ヲ哀願セラレ其境遇ニ同情シテ之ヲ引受ケ同日ヨリ約二週間毎日同町自家醫院ニ於テ同人ノ子宮内ニ「ガーゼ」ヲ更改挿入シ且子宮收縮胎兒排出ノ作用ヲ生スル麥角ヲ作用セシメテ墮胎ノ方法ヲ施シ因テ同年四月四日頃同町ノ右民江奉公先ニ於テ該胎兒ヲ娩

出 墮胎セシメ

(2) 昭和十四年五月九日頃同郡藤持村乾よしのヨリ其妊娠三ヶ月ノ胎兒ノ墮胎施術ヲ哀願セラレ同人カ婚約中ニテ未タ舉式セサル間ニ妊娠シ且輕微ナル助膜炎ヲ病メルニ同情シ自家醫院ニ於テ同年同月十五日頃同人ノ子宮内ニ「ブージー」ヲ挿入シ更ニ翌日鈍匙ヲ用ヒテ子宮内ノ搔把手術ヲ行ヒ以テ墮胎ノ施術ヲ爲シ因テ翌日右醫院内ニ於テ右胎兒ヲ娩出墮胎セシメタルモノニシテ

右ハ犯意繼續ニ出テタルモノナリ

第二、被告人酒井民江ハ名張町料理店梅花亭事稻森ノ方ニ於テ酌婦奉公中妊娠シタル處既ニ私生子一男アリテ他ニ養育ヲ依頼シ其養育料ニモ困窮セル状態ナルヨリ墮胎ヲ決意シ昭和十三年三月十三日頃被告人中村權ノ墮胎施術ヲ依頼シテ前記ノ如ク同人ヨリ墮胎手術ヲ受ケテ妊娠三ヶ月ノ胎兒ヲ墮胎シタルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スニ被告人權ノ判示所爲ハ刑法第二百十四條前段第五十五條ニ被告人民江ノ判示所爲ハ同法第二百十二條ニ該當スルヲ以テ其各所定期刑範圍内ニ於テ夫レ夫レ主文ノ刑ヲ量定處斷シ被告人等ニ對シテ何レモ其情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ則リ各四年間其刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年十二月十一日

上野區裁判所

二一六 墮胎

七六六

判決

本籍並住居

栃木縣下都賀郡南犬飼村大字國谷千百十七番地

農

石村サダ

明治十一年二月八日生

右ノ者ニ對スル墮胎被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役四月ニ處ス

理由

被告人ハ昭和十四年十一月八日頃相被告人高村辨彌同齋藤サツノ兩名ヨリ墮胎ノ囑託ヲ受ケルヤ即時之ヲ承諾シ栃木縣下都賀郡南犬飼村大字國谷地内山林ニ於テ紙捻ヲ右サツノ子宮内ヘ挿入シテ墮胎手術ヲ施シ因テ同年同月十一日頃同縣同郡稻葉村大字七ツ石七十三番地増山徳三郎方ニ於テ妊娠約六箇月ノ男性胎兒ヲ母體外ニ排出セシメ以テ右サツヲ墮胎セシメタルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百十三條前段ニ該當スルヲ以テ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ

處スヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年一月三十一日

宇都宮區裁判所

二一七 墮胎

判決

本籍

東京市淀橋區戸塚町二丁目七十六番地

住居

福島市北町四十二番地照内醫院方

醫師

竹内富三郎

當二十九年

右ノ者ニ對スル墮胎被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役參月ニ處ス

但シ貳年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

理由

二一七 墮胎

七六七

被告人ハ醫師ニシテ肩書醫院ニ勤務産婦人科ノ醫業ニ従事シ居ル者ナルトコロ昭和十三年十二月九日同醫院ニ於テ齋藤マス(當時二十四年)ヲ診察シテ妊娠ト診斷シタルカ同女ヨリ右ハ或男子ト通シタルニ因ルモノナルトコロ同人ハ近ク入營シ生還ヲ期シ得サル爲其ノ措置ニ付苦慮シ居リ若シ承諾ヲ得サルトキハ胎兒諸共自決ノ外ナシトテ事情ヲ打明ケ墮胎方囑託アリタルヨリ竟ニ之ヲ承諾シ妊娠中絶適應症ナキニ拘ラス即日同醫院手術室ニ於テ同女ノ子宮口ヲヘガール氏擴張器ヲ其ノ一番ヨリ十五番迄順次使用シテ擴張シ次テ流産鉗子及鈍匙ヲ使用シテ子宮内部ニ付搔爬方法ヲ施シ因テ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ母體外ニ排出セシメテ墮胎シタルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百十四條前段ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スヘク但シ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ從ヒ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年五月十日

福島區裁判所

二二八 產婆墮胎

判決

本籍 靜岡縣磐田郡今井村深見千四百八番地

住居 同所二千二百二十一番地

產婆

寺田正枝

當三十二年

右ノ者ニ對スル產婆墮胎被告事件ニ付濱松區裁判所カ昭和十年六月八日宣告シタル有罪ノ判決ニ對シ被告人ヨリ控訴ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役四月ニ處ス

但參年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

理由

被告人ハ肩書住居ニ於テ產婆ヲ開業シ居ル者ナルトコロ昭和九年一月十六日頃原審相被告人青田志すゑヨリ同人ノ墮胎方ヲ依囑セラレテ之ヲ承諾シ同日及同月二十日頃ノ二回自宅ニ於テ右志すゑノ子宮口ヘ「ラミナリヤ」ト稱スル海草ニテ作りタル物體ヲ挿入シテ墮胎手術ヲ施シ因テ同月二十一日頃右志すゑヲシテ靜岡縣磐田郡向笠村新屋ナル同人ノ當時ノ住居ニ於テ受胎五箇月位ノ胎兒ヲ排出セシメタルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百十四條前段ニ該當スルヲ以テ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處シ其ノ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認ムルニ依リ同法第二十五條ニ則リ參年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノト

ス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十年七月十一日

静岡地方裁判所刑事部

### 二一九 墮胎

判決

本籍 東京市本郷區駒込東片町百三十四番地  
 住居 神戸市須磨區戎町二丁目六十四番屋敷  
 醫師

秋 元 隆 一

明治三十一年二月十七日生

右之者ニ對スル墮胎被告事件ニ付神戸地方裁判所ノ昭和十五年二月二十七日宣告シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルニ因リ當院ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役八月ニ處ス

原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入ス

押収ニ係ルヘガール氏擴張器二點(證第一號)手術用子宮鏡一點(證第二號)ミューゾー氏双鉤鉗子一點(證第五號)胎盤鉗子一點(證第六號)ハ何レモ之ヲ沒收ス  
 訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ醫師ニシテ昭和十一年頃ヨリ神戸市須磨區戎町二丁目六十四番屋敷ニ醫院ヲ開設シ産婦人科ノ醫業ニ從事セラル者ナル處妊娠ヲ中絶スルコトヲ要スヘキ適應症ナキニ拘ラス同醫院診療室ニ於テ

第一 昭和十三年一月十九日妊婦西谷きく乃ノ墮胎手術實施方ノ囑託ヲ容レ同女ノ子宮頸管ニラミナリヤヲ挿入シ翌三十日手術用子宮鏡(證第一號)ミューゾー氏双鉤鉗子(證第五號)ヘガール氏擴張器(證第一號)等ヲ使用シ同女ノ子宮頸管ヲ擴張シタル上胎盤鉗子(證第六號)ヲ用キテ同女ノ子宮腔内ヨリ妊娠三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第二 同年二十九日妊婦江崎ふく江ヨリ前同様ノ囑託ヲ受ケ翌三十日前同様ノ方法ニ依リ右ふく江ノ子宮腔内ヨリ妊娠約二箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第三 同年二月十六日頃妊婦原事内田壽美子ヨリ前同様ノ囑託ヲ受ケ前同様ノ方法ニ依リ右壽美子ノ子宮腔内ヨリ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第四 同年三月二十九日頃佐藤きんヨリ妊婦佐藤キクニ對スル墮胎手術ノ實施方ノ囑託ヲ受ケ之ヲ應諾シ同月三十一日右キクノ承諾ヲ得テ前同様ノ方法ニ依リ右キクノ子宮腔内ヨリ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第五 同年五月五日妊婦梅井事木村フジヨリ前同様ノ囑託ヲ受ケ同月七日頃前同様ノ方法ニ依リ右フジノ子宮腔

内ヨリ妊娠約四箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第六 同年九月九日妊婦スミ事高橋靜子ヨリ前同様ノ囑託ヲ受ケ同年二十三日前同様ノ方法ニ依リ右靜子ノ子宮腔内ヨリ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第七 同年六月七日妊婦高見須美ヨリ墮胎スベキ旨意中ヲ打明ケラル、ヤ即日之カ手術ヲ引受クル旨申出テ同年十一日頃同女ノ承諾ノ下ニ前同様ノ方法ニ依リ同女ノ子宮腔内ヨリ妊娠約四箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第八 同年七月十一日頃妊婦前田正子ヨリ墮胎手術ノ實施方ノ囑託ヲ受ケ同年十五日頃前同様ノ方法ニ依リ右正子ノ子宮腔内ヨリ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第九 同年八月十三日妊婦竹中あきヨリ前同様ノ囑託ヲ受ケ同年十五日頃前同様ノ方法ニ依リ右あきノ子宮腔内ヨリ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第十 同年九月六日妊婦西山事角田敏子ヨリ前同様ノ囑託ヲ受ケ翌七日前同様ノ方法ニ依リ右敏子ノ子宮腔内ヨリ妊娠約四箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第十一 同年十月十四日頃妊婦鈴木ヨシコヨリ前同様ノ囑託ヲ受ケ同年十九日頃前同様ノ方法ニ依リ右ヨシコノ子宮腔内ヨリ妊娠約四箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第十二 同年十一月十五日妊婦藤崎シズ子ヨリ前同様ノ囑託ヲ受ケ翌十六日前同様ノ方法ニ依リ右シズ子ノ子宮腔内ヨリ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第十三 同年十二月二日妊婦寺尾事清水美枝子ヨリ墮胎スヘキ旨意中ヲ打明ケラル、ヤ即時之カ手術ヲ引受クル旨申

此テ同月三日頃同女ノ承諾ノ下ニ手術用子宮鏡(證第二號)ミニューゾー氏双鉤鉗子(證第五號)等ヲ使用シ子宮壁ト卵泡間ニブージーヲ挿入シ卵泡ヲ剝離シテ分娩ヲ促ス方法ニ依リ墮胎手術ヲ施シ因テ同月四日夜半頃同所ニ於テ右美枝子ヲシテ妊娠約六箇月ノ胎兒ヲ母體外ニ排出セシメ

第十四 昭和十四年四月十日頃藤崎シズ子ヨリ墮胎ノ手術ノ實施方ノ囑託ヲ受ケ同年十一月一日同女ニ對シ前同様ノブー

ジー挿入法ニ依ル手術ヲ實施シ同月十二日頃同所ニ於テシズ子ヲシテ妊娠約五箇月ノ胎兒ヲ母體外ニ排出セシメ

第十五 同月十七日妊婦梅井事木村フジノヨリ再前同様ノ囑託ヲ受ケ同年十九日頃前記第一ト同様ノ方法ニ依リ右フ

ジノノ子宮腔内ヨリ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第十六 同年五月二日妊婦寺尾事清水美枝子ヨリ再前同様ノ囑託ヲ受ケ同年四月四日前同様ノ方法ニ依リ右美枝子ノ子宮

腔内ヨリ妊娠約三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第十七 同月十日妊婦竹中あきヨリ再前同様ノ囑託ヲ受ケ翌十一日前同様ノ方法ニ依リ右あきノ子宮腔内ヨリ妊娠約

三箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

第十八 同月十六日妊婦伊藤のぶるヨリ種々妊娠ノ苦痛ヲ懇ヘラル、ヤ同女カ墮胎ヲ欲セルコトヲ察知シ同女ノ承諾

ノ下ニ翌十七日前同様ノ方法ニ依リ右のぶるノ子宮腔内ヨリ妊娠約四箇月ノ胎兒ヲ摘出シ

以テ各妊婦ヲシテ墮胎セシメタルモノナリ而シテ右ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

(證據説明省略)

法律ニ照スニ被告ノ判示所爲ハ刑法第二百十四條前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告

人ヲ懲役八月ニ處シ同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入シ主文掲記ノ物件ハ何レモ本件犯行ノ用ニ供シタル物ニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス  
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年五月二十八日

大阪控訴院刑事部

1500

33.6.24

1500

33.6.24

本館ノ大々ハ規定規格 A5 3

